移動と結果構文―動的考察

現影秀昭

本論考では(1)のような使役移動(結果)構文が、(A)-(D)の様な特徴を有する派生的な構文であることを論じる。

(1) It can be hard to discern what is being depicted; it looks at first glance as if a giant sneezed wood stain all over the court. (BASKETBALL, SPORTS, "A college basketball court or a painter's canvas?" *The International Herald Tribune*, March 21, 2013, p. 13)

(A) 主語－自動詞という形式(例 a giant sneezed, 以下「S－IV」)の表わす意味および名詞句－前置詞(句)という形式(例 wood stain all over the court, 以下「NP－P(P)」)の表わす意味が(Stainton 2006 でいうところの)mentalese において(使役移動の意味が補填される形で)結合される。なお、くしゃみが体外の物体の移動を引き起こす状況を描写した資料が少ないのは、くしゃみには、くしゃみそれ自体を構成するもの―すなわち空気―の移動が伴うという事実に起因するかもしれない。この状況は、手を伸ばして物を取るという動作と似ている。後者にも、手を伸ばしてとることそれ自体を構成するもの―すなわち手や足―の移動が伴うからである。

(B) S－IV は文であり、NP-P(P)は断片であり、本来構造的には独立したものであるが、(A)を踏まえて、単一の文に結合／圧縮される。その際、S－IV は、NP－P(P)という断片と NP を共有(して)結合すると仮定する。

(C) (B)には、表現形式と意味が類似した(2)の様な他動詞構文をモデルとした拡張も関与する。

(2) Olive blew a smoke ring into the air. (*The Sculpteress*, p. 7)

(2)の例には次の 3 つの意味の断片が関与すると思われる: (i) 移動 ― Olive が息を吐いたこと; (ii) 創造 ― Olive が煙の輪を作ったこと; (iii) 移動 ― Olive が煙の輪を空中に向かって移動したことである((ii)については、build a device into the machine や a cigarettte burned a hole in his clothes.の様な例を考えてみるとよい。また sneeze も(ii)の意味を持つことがある: I bet your cow never sneezed a hole in the schoolhouse wall. Our cow did!)

(D) (A), (B)でいう断片 NP－P(P)は、言語獲得の早い段階に見られる Necklace off のような発話のなごりと考えられる。

本論考で問題にしている(1)に代表される構文は、本来自動詞(例 sneeze)を(使役移動の意味を伴う形で)他動詞らしく(即ち目的語らしき名詞句を伴う形で)用いる点で「派生的／周辺的」なものと感じられる。今述べた「派生的／周辺的」という直観を正しく捉える形でどう構文の成立を捉えることができるかどうかが中心的な課題である。

本論考と先行研究との相違点は、(a)この構文を派生的／周辺的なものと位置づけた上で、(b) S－IV 自動詞構文と NP－P(P)文断片との結合／圧縮によって派生的に得られるものとする点にある。(a) 同構文が派生的／周辺的であるとの主張を示す根拠として、この構文に見られる(非能格)動詞の項構造の変化(とでもいうべきもの)は、当該動詞が派生名詞になると継承されないことが挙げられる。つまり、使役移動構文の述語は、動名詞形でも、名詞句でも許されないという事実である(cf. 浅川 (1986))。また(b)については、結合圧縮を受けない段階である S-IV. NP-P(P)の様な発話の連鎖が観察されることがあるのか、結合／圧縮を想定することで同構文のどのような性質が説明か可能となるのか、といった証拠立てについて論じる。